

IFW VP シリーズ 2021-4

選挙

2021.5.3

府川哲夫 (IF 研)

表1は過去5回の総選挙の結果（100万人単位の得票数と議席数）を示したものである。2009年は政権交代があり、投票数が大幅に増加した。自民・公明・共産の3党以外は政党の盛衰がはげしい。小選挙区と比例代表の違いは、与党対野党で得票数と議席数を比較するとよく分かる（政権党以外を全て野党とした）。小選挙区においては総得票数は与野党で大差ない（むしろ野党の方が多）が、議席数は1対3~4と圧倒的に与党に片寄っている。一方、比例代表においては得票数が多い方が多くの議席を獲得している。

表1 過去5回の総選挙結果

(m=100万票)

	2005.9.11					2009.8.30					2012.12.16				
	得票数(m)		議席数			得票数(m)		議席数			得票数(m)		議席数		
	小	比例	小	比例	計	小	比例	小	比例	計	小	比例	小	比例	計
自民党	32.5	25.9	219	77	296	27.3	18.8	64	55	119	25.6	16.6	237	57	294
公明党	1.0	9.0	8	23	31	0.8	8.1	0	21	21	0.9	7.1	9	22	31
民主党	24.8	21.0	52	61	113	33.5	29.8	221	87	308	13.6	9.6	27	30	57
維新						6.9	12.3	14	40	54					
みんな						0.6	3.0	2	3	5	2.8	5.2	4	14	18
未来											3.0	3.4	2	7	9
共産党	4.9	4.9	0	9	9	3.0	4.9	0	9	9	4.7	3.7	0	8	8
社民党	1.0	3.7	1	6	7	1.4	3.0	3	4	7	0.5	1.4	1	1	2
その他	3.9	3.3	20	4	24	4.0	2.8	10	1	11	1.6	0.9	6	1	7
合計	68.1	67.8	300	180	480	70.6	70.4	300	180	480	59.6	60.2	300	180	480

	2014.12.14					2017.10.22				
	得票数(m)		議席数			得票数(m)		議席数		
	小	比例	小	比例	計	小	比例	小	比例	計
自民党	25.5	17.7	222	68	290	26.5	18.6	215	66	281
公明党	0.8	7.3	9	26	35	0.8	7.0	8	21	29
民主党	11.9	9.8	38	35	73					
立民党						4.7	11.1	17	37	54
維新	4.3	8.4	11	30	41	1.8	3.4	3	8	11
希望						11.4	9.7	18	32	50
共産党	7.0	6.1	1	20	21	5.0	4.4	1	11	12
その他	3.4	4.0	14	1	15	5.2	1.6	27	1	28
合計	52.9	53.3	295	180	475	55.4	55.8	289	176	465

注：維新＝日本維新の会（2012&2017）、維新の党（2014）；未来＝日本未来の党、立民党＝立憲民主党

小選挙区と比例代表の対比

	2005.9		2009.8		2012.12		2014.12		2017.10	
	得票	議席	得票	議席	得票	議席	得票	議席	得票	議席
小選挙区										
与党	33.5	227	33.5	221	26.5	246	26.3	231	27.3	223
野党	34.6	73	37.1	79	33.1	54	26.6	64	28.1	66
比例代表										
与党	34.9	100	29.8	87	23.7	79	25.0	94	25.6	87
野党	32.9	80	40.6	93	36.5	101	28.3	86	30.2	89

表2は6か国の国会議員定数等を比較したものである。上院議員は日本（参議院議員）とアメリカ以外は国民による投票ではない。従って、「人口100万人当たりの国会議員数」では日本と

アメリカのみ上院も対象とした。アメリカは州の人口に比例して下院の定数が割り振られ（総数 435 人）、上院議員は各州 2 名で計 100 名となっている。つまり、下院は有権者間の平等を、上院は州間の平等を実現している。この表によると日本の国会議員数は人口 100 万人当たり 5.6 人で、アメリカに次いで少ない。

表2 6 か国の国会議員定数等

	フランス	ドイツ	日本	スウェーデン	イギリス	アメリカ
面積(1,000Km ²)	555	357	373	450	242	9,364
総人口(100万人)	67.0	83.0	126.2	10.2	66.6	328.2
国会議員定数(人) 下院	577	598	465	349	650	435
上院	348	69	248	—	・・・	100
国会議員任期(年) 下院	5*	4*	4*	4*	5*	2
上院	6a	・・・	6a	—	・・・	6b
人口100万人当たり議員数(人)	8.6	7.2	5.6	34.2	9.8	1.6

注1：フランスの上院は下院議員と地方議員代表の投票による間接選挙、ドイツの上院(連邦参議院)は州政府が任命、スウェーデンは一院制、イギリスの上院は非選出議員で定員なし。

注2：* 解散あり、a 3ごとに半数改選、b 2年ごとに1/3改選。

注3：人口100万人当たり議員数では日本とアメリカは下院+上院、それ以外は下院のみ。

出典：OECD Health Statistics 2020 等

安定政権をつくるには小選挙区制が適しており、民意を反映するには比例代表制が適している。全国で1つの比例区を採用しているイスラエルでは2021年3月に直近2年間で4度目となる総選挙が実施され、政権が不安定である。小選挙区制では得票率が50%を超えた候補が当選するのが一般的である（そのために1回目の投票で1位と2位の2名による決選投票が行われる）が、日本では得票率が50%に届かなくても1位の候補が当選する。このため、3人の候補が拮抗していた場合は得票率が34%でも当選してしまう。決選投票の手間を惜しんで日本は何かを失っているかも知れない。

国会議員数が多いか少ないかということも折にふれて議論になる。特に、国民に負担を求める際に「国会議員も身を切るべきだ」という議論が起きるが、筋違いであろう。国会議員の活動が報道されることが少ないので、国民は選挙の時しか見ない議員が多すぎるという印象をもってしまふのであろう。日本の国会議員数はむしろ少ない方で、問題はその数より質である。国会議員の質を向上させるには、良い人材を政界に送る仕組みを持たなければならない。その一環として女性の国会議員を増やす取り組みも位置づけられる。フランスではパリティ法により各政党に対し男女同数の候補者擁立が義務付けられ、下院議員選挙では男女の候補者の割合が50%から離れるほど政党助成金が減額される（内閣府、2020）。

日本の政党支持率を与党・無党派・野党という括りで大まかにみると5割・3割・2割といわれている。小選挙区で与野党の候補者が1対1で対峙した場合（全国の政党支持率がこの小選挙区にも当てはまると仮定して）、与党支持者の85%と無党派の30%を得られれば与党候補者が勝利する。与党支持者の70%でも、無党派の40%と野党支持者の20%を得られれば与党候補者が勝利する。しかし、与党支持者の70%+無党派の40%+野党支持者の10%の組み合わせ（野党候補者からみれば、与党支持者の30%+無党派の60%+野党支持者の90%）では与党候補者の得票率は49%に留まり、野党候補者が得票率51%で勝利する。選挙では「人で選ぶか、党で選ぶか」という問いも昔からあった。良い人材を政界に送らなければ国民はhappyになれない。

文献

内閣府 (2020). 諸外国における政治分野の男女共同参画のための取組.